



愛知長久手ロータリークラブ

2015-2016



WEEKLY

例会日=毎週火曜日 PM12:30 例会場=トヨタ博物館「小ホール」

会長 小谷恒夫 幹事 青山和成 会報 宮下智香子

Email: a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp

事務局 TEL:0561-64-5446

FAX:0561-64-5459



世界へのプレゼントになろう



本日 第 617 回例会 2015 年 12 月 19 日(土曜日)第 609 号

年末家族例会

場所: Piano PIANO

時間: 18:00 受付

18:30 開会

前回 第 616 回例会 2015 年 12 月 8 日(火曜日)記録

<ロータリーソング> 「我らの生業」

総合司会 神谷恵理親睦活動委員

<出席報告>

員総数 20 名

出席者 14 名 出席率 70.00 % 前々回補正出席率 95.00 %



ハンバーグセット

<会長挨拶>

愛知長久手ロータリークラブ 小谷恒夫 会長



ダグラス・マッカーサー

Mac Arthur

東京 RC...



ダグラス・マッカーサー (Douglas MacArthur, 1880 年 1 月 26 日 - 1964 年 4 月 5 日) は、アメリカの軍人、陸軍元帥。連合軍最高司令官総司令部を務めた。トレードマークはコーンパイプ。1880 年、軍人である父の任地であったアーカンソー州リトルロックの兵営内の宿舎で生まれ、基地内で育った。父のアーサー・マッカーサー・ジュニア中將は南北戦争の退役軍人であり、名誉勲章を受章している。アメリカが植民地支配していたフィリピンでは初代軍政総督も務めた人物であり、ダグラスは親子 2 代でフィリピンに縁があった。

- o 生まれ: 1880 年 1 月 26 日・アーカンソー州
- o 没: 1964 年 4 月 5 日・ワシントン DC 地区
- o 身長: 183 cm
- o 関連する映画: 終戦のエンペラー
- o 受賞歴: 名誉勲章・殊勲十字章・シルバースター・ブロンズスターメダル

o 学歴: 陸軍士官学校

フランクリン・ルーズベルト、ウィンストン・チャーチルらとは遠戚関係にある。これは、マッカーサー家が元々はスコットランド貴族の血筋で、祖父のアーサー・マッカーサー卿の代にスコットランドから移民したためである。姓 MacArthur の Mac は、スコットランドやアイルランドなどケルト人由来の家名で、『XX の息子』という意味であり、祖父 Authur Sr.、父 Arthur Jr.、ダグラスの兄 Arthur III の三代において、『名=Arthur』+『姓=Arthur の息子』というパターンを引き継いでいる事になる。

1899 年にウェストポイントアメリカ陸軍士官学校にトップ入学し、1903 年に陸軍少尉で卒業した。この時期、母メアリーは学校の近くのクレイニー・ホテルに移り住んでいた。その成績はアメリカ陸軍士官学校史上抜群で、マッカーサー以上の成績で卒業した者はこれまで二名しかいない（ロバート・リーがそのうちの一人である）。1905 年に父が日露戦争の観戦任務の為に駐日アメリカ合衆国大使館付き武官となった。マッカーサーも副官として日本の東京で勤務した[1]。マッカーサーは日露戦争を観戦したと自らの回想記に書いているが[2]、彼が日本に到着したのは 1905 年 10 月で、ポーツマス条約調印後であり、記憶違いと思われる[3]。この後マッカーサーと家族は、日本を出発し中国や東南アジアを経由してインドまで 8 か月かけて、各国の軍事基地を視察旅行しており、この時の経験がマッカーサーの後の軍歴に大きな影響を与える事になった。また、この旅行の際に日本で東郷平八郎、大山巖、乃木希典、黒木為楨ら日露戦争で活躍した司令官たちと面談し、永久に消える事が無い感銘を受けたとしている[4]。

太平洋戦争

日本陸軍戦闘機の攻撃で自軍の航空機を破壊されると、人種差別的発想から日本人を見下していたマッカーサーは、「戦闘機を操縦しているのは（日本の同盟国の）ドイツ人だ」と信じ、その旨を報告した。また、「日本軍の陸軍、海軍機あわせて 751 機が飛来し彼我の差は 7 対 3 という圧倒的不利な状況下にあった」と報告したが、実際は日本側が 191 機、米側は 249 機であった。

怒濤の勢いで進軍してくる日本軍に対してマッカーサーは、マニラを放棄してバターン半島とコレヒドール島で籠城する作戦に持ち込んだ。「2 ヶ月に渡って日本陸軍を相手に『善戦』している」と、アメリカ本国では「英雄」として派手に宣伝され、生まれた男の子に「ダグラス」と名付ける親が続出した。しかし、実際にはアメリカ軍は各地で日本軍に完全に圧倒され、救援の来ない戦いに苦しみ、このままではマッカーサー自ら捕虜になりかねない状態であった。日本軍の攻撃を前にした敵前逃亡はマッカーサーの軍歴の数少ない失態となった。彼は 10 万余りの将兵を捨てて逃げた卑怯者と言われた。また、「I shall return」は米兵の間では敵前逃亡の意味で使われ、安全なコレヒドールに籠って前線のバターン半島にも出てこない彼を揶揄した「Dugout Doug（壕に籠ったまま出てこないダグラス）」というあだ名も広く知られた。さらに、ケソンから 50 万ドルを私的に取った卑しい行為がアイゼンハワーら軍首脳部の反感を買った。だが、オーストラリアに逃亡したマッカーサーは南西太平洋方面の連合国軍総司令官に就任した。その後もマッカーサーの軍歴にこの汚点がついてまわり、マッカーサーの自尊心を大きく傷つける結果となった。

1944 年のフィリピンへの反攻作戦については、アメリカ陸軍参謀本部では「戦略上必要無し」との判断であったし、アメリカ海軍もトップのアーネスト・キング作戦部長をはじめとしてそれに同意する意見が多かったが、マッカーサーは「フィリピン国民との約束」の履行を理由にこれを主張した。マッカーサーがこの作戦を押し出した理由としては、フィリピンからの敵前逃亡を行った汚名をそそぐことと、多くの利権を持っていたフィリピンにおける利権の回復の 2 つがあったと言われている。ルーズベルトは 1944 年の大統領選を控えていたので、国民に人気があるマッカーサーの意をしぶしぶ呑んだと言われている。

マッカーサーは 10 月 23 日にセルヒオ・オスメニャとともにフィリピンのレイテ島のレイテ湾に上陸した。フィリピンのゲリラにも助けられたが、結局は終戦まで日本軍の一部はルソン島の山岳地帯で反撃を続け、結果的に殲滅は出来なかった



バターン号で厚木海軍飛行場に到着したマッカーサー

1945年8月14日に日本は連合国に対しポツダム宣言の受諾を決定。戦争終結のための調印式が、9月2日に東京湾上の戦艦ミズーリ艦上で全権・重光葵（日本政府）、梅津美治郎（大本営）がイギリスやアメリカ、中華民国やオーストラリアなどの連合国代表を相手に行なわれ正式な降伏へ至った。かくして直ちに日本はアメリカ軍やイギリス軍（イギリス連邦占領軍）、中華民国軍やフランス軍を中心とする連合軍の占領下に入る事となる。

マッカーサーは、降伏文書の調印に先立つ1945年8月30日に専用機「バターン号」で神奈川県厚木海軍飛行場に到着した。厚木に降り立ったマッカーサーは、記者団に対して第一声を以下の様に答えた。

メルボルンから東京までは長い道のりだった。長い長い困難な道だった。しかしこれで万事終わったようだ。各地域における日本軍の降伏は予定通り進捗し、外郭地区においても戦闘はほとんど終熄し、日本軍は続々降伏している。この地区（関東）においては日本兵多数が武装を解かれ、それぞれ復員をみた。日本側は非常に誠意を以てことに当たっているやうで、報復や不必要な流血の惨を見ることなく無事完了するであらうことを期待する

－ 朝日新聞（1945年8月3日） 連合軍占領下の日本

連合軍占領下

の日本マッカーサーの強力な指導力の下で、

五大改革などの日本の主権が回復され、日本国憲法が公布された。

1945年、連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサーは当時の首相幣原喜重郎に対し、五大改革指令を命じた。

その内容は

1. 秘密警察の廃止
2. 労働組合の結成奨励
3. 婦人の解放
4. 教育の自由化
5. 経済の民主化

1946年、GHQは日本国憲法を成立させ翌年から施行した。大日本帝国憲法を改正する形をとり、主権在民、象徴天皇制、戦争放棄、男女同権などの理念を盛り込んだ。また改革の大きな柱として戦争協力者の公職追放、財閥解体、農地改革などが含まれる。農地改革で自作農が飛躍的に増えたことは農村部の保守化につながったともいわれる。

アメリカの占領政策 3 R、5 D、3 S 政策

この欠陥（昭和の教育が知識、技術に偏り人間学の教育が無かった）が終戦後また現れまして、占領軍の日本統治に対して対応する仕方を全く誤りました。占領軍は、むしろ日本を非常に買いかぶっておいりましたから、いかにこれをアメリカナイズ

この政策に巧妙な解説がありますが、たとえば3 R、5 D、3 S 政策というものです。

これについて、当時GHQにおりました参事官でガーディナーという、ちょっと東洋流の豪傑のようなところもある人物からも直接聞いたことがあります。

それによると、3 Rはアメリカの対日占領政策の基本原則、5 Dは重点的施策、3 Sは補助政策です。

3 Rの第一は復讐（Revenge）です。アメリカ軍は生々しい戦場から日本に乗り込んだばかりで復讐心に燃えていたので無理ありませんが、復讐が第一でした。第二は改組（Reform）。日本の従来のあるあらゆる組織を抜本的に組み替える。第三は復活（Revive）で、改革したうえで復活、つまり独立させてやる、抹殺してしまうのは非人道的だからというわけですが、この点、日本はアメリカが占領軍で有難かったわけです。共産国だとどうなったか知りません。

5 Dの第一は武装解除（Disarmament）、第二は軍国主義の排除（Demilitarization）、第三は工業生産力の破壊（Disindustrialization）で、軍国主義を支えた産業力を打ち壊すというもの。第四は中心勢力の解体（Decentralization）で、行政的に内務省を潰してしまう。警察も国家警察も地方警察とに分解する。そして財

界では、三井総元方あるいは住友、三菱の総本社を分解する、つまり財閥解体です。第五は民主化（Democratization）で、日本の歴史的・民族的な思想や教育を排除してアメリカ的に民主化する。そのためにはまず日本帝国憲法を廃棄して天皇を元首から引き降ろし、新憲法を制定してこれを象徴にする。皇室、国家と緊密な関係にあった神道を国家から切り離す、国旗の掲揚は禁止する。教育勅語も廃止する。これにはかなり抵抗がありましたけれども、GHQのひとにらみで駄目になってしまった。

新憲法も、あれを受け入れるならば、「日本が独立の暁には、この憲法は効力を自然に失う」という付則をつけておくべきであったが、そういうことも何もしていない。ドイツなどは、それをちゃんとやったのです。これをやらなかった日本は、本当に間抜けというか、意気地なしというか・・・、そしてアメリカ流のデモクラシーに則って諸制度を急につくり上げてこれを施行したわけです。これが5D政策です。

それを円滑あるいは活発に行わしめる補助政策として3S政策があった。第一のSは、セックスの解放、第二のSがスクリーン、つまり映画・テレビというものを活用する。それだけでは民族のバイタリティ、活力、活気を発揮することがないから、かえって危ない。そこで精力をスポーツに転ずる。これはうんとやらせる。スポーツの奨励—これが第三のS。これらを、3Rの基本原則と、具体的な5D政策の潤滑油政策として奨励した。これを3R、5D、3S政策というわけです。

<委員会報告>

■ニコボックス■

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ・本日も宜しくお願い致します。 | 青山 和成 |
| ・今年も残り3週です。早い1年ですネ！本日も宜しく申し上げます。 | 丹羽 司一 |
| ・本日もよろしく申し上げます。 | 富田 盛義 |
| ・本日は年次総会ですね。来年度に向けて有意義な会になりますように | 伊藤 広治 |
| ・年次総会よろしくお願い致します。 | 日野 典子 |
| ・久しぶりの例会出席、申し訳有りませんでした。よろしく申し上げます。 | 大島 昭夫 |
| ・年次総会よろしくお願い致します。 | 山田 文明 |
| ・冬晴れの素晴らしい空ですね。本日もよろしく申し上げます。 | 中川 清子 |
| ・本日もよろしくお願い致します。 | 田中 信子 |
| ・今年も残り少なくなりましたね。本日もよろしく申し上げます。 | 林 正俊 |
| ・年次総会宜しく申し上げます。 | 宮下智香子 |
| ・本日もどうぞよろしく申し上げます。 | 伊藤 真 |
| ・本日も宜しく申し上げます。 | 神谷 恵理 |
| ・本日もよろしくお願い致します。 | 小谷 恒夫 |

“^{スリーエス}3Sは ランチはスポーツ ディナーはサイレント映画 深夜はSMクラブ”

<幹事報告>

- ① 下期会費納入につきましては、1月12日（火）夜間例会にて振込用紙と合わせてお渡しいたします。尚、夜間例会ご案内につきましては今週中にFAXにて送られていただきます。よろしくお願いいたします。
- ② 年末家族例会のご案内をさせて頂いておりますが、ご返事をまだされていない方は、事務局に参加人数の連絡をお願いいたします。
- ③ 次週12月15日（火）は12月19日（土）年末家族例会に振替になりますので15日例会はございません。次週例会日は12月19日（土）年末家族例会…18:00 受付 18:30 開会となります。
- ④ 12月22日（火）例会は、トヨタ博物館館内改装の為、例会は「華野」で行います。時間は12:30～13:30になります。よろしくお願いいたします。尚、移動例会が続きますので次週WEEKLYは12月22日（火）例会にてまとめてお渡しいたします。

<卓 話>

小谷 恒夫会長

2015～2016年度の会長と青山幹事のコンビで7月からスタートして半年が経とうしております。愛知長久手RCの会員の皆様のご協力の下、来年に向けて更なる会長：幹事の役目を全うしていく所存であります。

20名という限られた中での役割分担は、会員の皆様の共生がなければ成り立ちませんのでよろしくお願いいたします。

2016～2017年度は日野会長と大島幹事という人選になっておりますので、会員増強5名目標合計25名体制に向けて、愛知長久手RCの発展に小谷&青山幹事は邁進していきますので、よろしくお願い致します。

日野典子会長江レクト

2016～2017年度会長を任命されました日野典子です。

愛知長久手ロータリークラブに入会させていただきはや13年になりました。

まだまだ新入会員だと思っていたのに・・・

もっとロータリーを知りたいと委員長の役目を果たしていただけて一生懸命努めていますと必ず助けていただけました。そんな仲間がいてくれたので女性という立場のこんな私でも会長ができるかもしれないと考えるようになりました。

どんな事も皆さんと協力して前に進んで行こうと考えています。そして、楽しい例会が出来る長久手ロータリークラブをつくって行きたいと思えます。その為にも会員皆様のご協力をお借りしたいのです。どうかよろしくお願い申し上げます。

★ハイライト よねやま 189号★ 2015年12月14日発行

12月1～4日、東京・台場で第44回ロータリー研究会が開催され、4人のよねやま親善大使が登壇してそれぞれの「ロータリーモーメント心に残るロータリー体験」を発表しました。3日には、楊小平さんが「大きな家族」、スチッタ・グナセカラさんが「ロータリアンの皆さん、もっと喜んでください」と題したスピーチを、4日には、金福漢さんが「障害のある仲間とともに生きる」、于咏さんが「You Raise Me Up, Rotary!!」を発表。それぞれのスピーチに会場から大きな拍手と賞賛が贈られ、フィリピンのギーラー E.タマンガンRI理事から「ぜひ英訳原稿が欲しい」との要望をいただくほどでした。また、3日午前の配偶者茶話会では、日本のロータリアンが推進する米山奨学事業をテーマとし、よねやま親善大使2人のスピーチのほか、第2580地区現役米山奨学生3人が日本に来て驚いたことなどのエピソードを発表し、各テーブルで配偶者の方々との交流も深めました。

最後に、東京芸術大学で学ぶ2人の奨学生による篠笛、竹笛、三味線を使った圧巻の演奏が披露され、大変な盛り上がりを見せました。



12月22日(火)	12月29日(火)	1月5日(火)	1月12日(火)
会員卓話	規定休日	規定休日	新年夜間例会
(華野)			(松楓閣)